

統語意味論によるアマリの分析

1LT13161G 山之口浩平

1. 問題

大口(2013)では、アマリには大きく 2 つの機能があることが主張されている。

- (1) a. 「何かの度合いが話者の目安値を上回っている」という状態を表すアマリ
例) あまりの楽しさに、時間を忘れた。 [大口 2013: 28 (103)]
- b. 「何かの度合いが手に余る域に達した」という出来事を指示するアマリ
例) 楽しさのあまり、時間を忘れた。 [大口 2013: 34 (132)]

大口(2013)では、アマリは他の語彙項目 P と Merge することで「P の度合いが話者の基準値を越える」という意味になると述べられているが、そこでも指摘されているように、必ずしも P 自体は何かしらの度合いを持つとは限らない例がある。

- (2) a. あまりの言葉に私はショックを受けた。
- b. あまりの仕打ちにやるせない気持ちになった。

このような例に対して、大口(2013)は、P が度合いを持たない場合には文全体の意味解釈を踏まえて適宜度合いを補って解釈すると考察した。しかし、必ずしも文全体の意味解釈を考えなくても、アマリと P だけでも解釈は可能であり、この説明には疑問が残る。

2. 提案

本論文では、大口(2013)の提案を上山(2015)の統語意味論に基づいて再解釈した上で、さらに、(1a)のアマリを(3)のようにとらえるべきであると主張する。

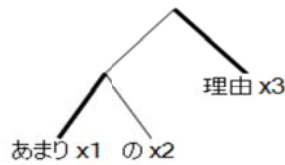
- (3) a. 「P の度合いが話者の基準値を越えて甚だしいさま、度が過ぎてひどいさま」を表す degree property を持つアマリ
- b. $[\{N\}, \langle \text{●}, \{\langle \text{ひどさ}, \text{あまり} \rangle\} \rangle, \text{あまり}]$

2.1. P が degree property を持たない場合の分析

まず、P が degree property を持たない場合、次のように意味解釈が説明できる。

(4) a. あまり_{x1}の 理由_{x3}に、言葉が出なかった。

b.



c. 「あまりの理由」の意味表示

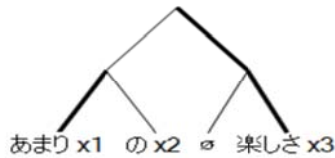
{<x3, {<Kind, 理由>, <ひどさ, あまり>}>}

2.2. P が degree property を持つ場合の分析

P が degree property を持っている場合には、<ひどさ, あまり>という property も出力されるが、<楽しさ, ____>という property と統合することによって上書きされると考えたい。

(5) a. あまり_{x1}の 楽しさ_{x3}に、時間を忘れた。

b.



c. 「あまりの楽しさ」の意味表示

{<x4, {<楽しさ, あまり>}>}

(cf. {<x4, {<ひどさ, あまり>, <楽しさ, ____>}>})

3. 根拠

(3)の提案は、このアマリにもともと「ひどい」というマイナスの意味が含まれていると考える点で大口(2013)と異なっている。次のような例を見ても、アマリにもともと「ひどい」という意味が含まれていることがうかがえる。

(6) a. その言い方はあんまりじゃないか。(≡その言い方はひどい)

b. あまりのことに驚いた。(≠あまりのすばらしさに驚いた)

c. あまり飲むと体に悪い。 [服部 1993: 12 (74)]

4. 参考文献

服部匡(1993)「副詞「あまり(あんまり)」について—弱否定および過度を表す用法の分析—」

『同志社女子大學學術研究年報』44(4): 451-477. 京都: 同志社女子大學.

大口恵理(2013)「アマリの構造と解釈」, 修士論文, 九州大学.

上山あゆみ(2015)「統語意味論」 名古屋: 名古屋大学出版会.